

令和7年度 荒浜小学校 学校経営方針

校長 桑原 浩史

1 教育目標 学ぶ子 高まる子 きたえる子

2 目指す子どもの姿

- (知育) 進んで学び、自分の考えを表現する子 …… 学ぶ子
- (徳育) 他者と適切に関わって、互いのよさを伸ばし合う子 …… 高まる子
- (体育) 自分の生活、健康、安全を正しく維持できる子 …… きたえる子

3 目指す荒浜小の姿

◎学校は子どもたちにとって楽しいところ。夢中になれることがあるところ。

わくわく感が感じられる。笑顔が自然に出てくる。

◎一人一人のよさが認められ、安心して過ごすことができるところ

個性が認められる。自分を素直に表現できる。

◎仲間とともに成長するところ

一人では成長できない。仲間がいるから高まることができる。

4 年度の重点目標

「かかわりあい ささえあい みとめあい ～ひとにやさしく～」

5 重点取組

(1)「学ぶ子」の実現に向けて

- ①子どもは自ら学び続ける存在である
- ②学ぶ過程の重視
(「問い」が生まれる授業、自己選択・自己決定……自分で決める、実践する・やってみる)
(かかわりが生まれる授業。みんなで決める。認め合う。)
- ③個別最適な学びと協同的な学びをバランスよく
- ④教科では焦点化して、生活・総合ではダイナミックに……全ての学びで資質・能力を育てる

(2)「高まる子」の実現に向けて

- ①子どもは誰もがよくなりたくて願っている。
- ②自己有用感を育む。(日々の生活のちょっとした場面を評価して・他者とのかかわりの中で)
- ③互いを尊重し、安心して自分を表出できる環境づくり(道徳、特別活動)
- ④人権感覚を磨き、正しい価値観や生き方を学ぶ同和問題学習、道徳科授業の充実
(法理解、道徳教育、インクルーシブ教育、最悪を想定して対応、「諭す」生徒指導)

(3)「きたえる子」の実現に向けて

- ①運動のおもしろさ、心地よさ、自分のからだへの気付きを大切にする。
(健康観察、生活習慣)
- ②メディアコントロール力を高める指導の工夫
- ③適切な時間管理意識を高める「自分で決めて自分で続ける」意識を育てる

6 わたしたち職員が大事にしたいこと

【その1】 子どもに愛情を注ぎ続けること、大好きでいること

- 子どもが不十分に見えるのは、その子が悪いのではなく、良くなる過程のまだ途中であるだけのこと。これからの環境・指導次第でどうにでも変わっていく。そのカギは私たちが握っているという意識。
- その子の成長は、私たちの指導技術ではなく、私たちの心のもちようにかかっているということ。
- 今変わらなくてもよい。いつか分かってくれる、いつかできるようになる、いつか変わるときがくる。子どもの力を信じて、愛情をもった指導を続けたい。
- あなたたちが大好きだよということを、時々でいいから子どもへ伝えてほしい。

【その2】 「子どもにとって教職員が一番の教育環境」

- 子どものモデル（言葉遣い、時間を守る、服装 等）
- 自分の当たり前を疑ってみる謙虚さ
- 同僚の声に耳を傾ける姿勢

【その3】 「いのち」を守る」

- すべての教育活動で意識する。いのちは突然なくなってしまうこともある。
- 危機管理のアンテナを高く。迷ったら動く。一瞬の判断でためらわない。
- 組織対応（報・連・相）

【その4】 和と笑顔がある職員集団

- 私たち全員で、全校の子どもたちの成長にかかわっているという意識で。
- 仕事は変わってやれないかもしれないが、つらさは共感することができる。職員の苦しさをキャッチできる仲間をいよう。誰かをひとりぼっちにしない。
- 感謝を形に。（声掛け、気遣い、一緒に動く 等）
- 笑顔で。楽しく。そこから職員の輪も生まれる。

【その5】 保護者・地域は子育てのパートナー

- 保護者に寄り添った対応（共感的理解、定期面談 等）保護者も苦しんでいるケースがほとんど。その苦しさを受け止めて一緒に子どもを育てることが結局子どものためになる
- 地域人材の積極的活用

【信頼される学校の基盤となること】

- 非違行為をしない、させない、許さない（飲酒運転、速度超過違反、交通加害事故、個人情報紛失・流出、信用失墜行為、体罰・暴力行為、性非行、ハラスメント等）
- ワークライフバランス（健康第一、家族・私生活を大切に、休暇の有効活用）